

地藏尊の宗教 ①

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

民衆に根ざした地藏信仰

地藏尊を本尊とするこ
とで有名な矢田寺は、京
都三条寺町のアーケード
商店街にある。お寺の入
り口は周りの商店と変わ
らぬ間口で、そこがお寺
であることはわかりにく
い。しかし一步境内に足を
踏み入れれば、市井の雑
踏とは無縁のお地藏様の

世界が静かに広がって
いる。

伝承によれば弘仁年
間(八一〇-八二四)、大和
の矢田寺の住持だった満
米上人が地獄巡りに行
き、火炎の中から亡者を
救う地藏尊に出会った。
地獄から戻った上人はそ
の地藏尊のお姿を彫らせ



京都矢田寺のご本尊(筆者撮影)

京都に同じ名前の別院を
建立して本尊としたとい
う。これが京都の矢田寺
の縁起である。この霊驗
譚を描いた二巻の絵巻
『矢田地蔵縁起』(室町時
代)は、矢田寺の所有する
重要文化財として地藏尊
の功德を伝えている(京
都国立博物館寄託)。人の
世は有為転変し、矢田寺
も秀吉の区画整理による
境内の移転や、真言宗か
ら浄土宗への改宗などを
経たが、五尺二寸(一五七
cm)の寄木造の地藏立像
は、今なおその温容と威
容を人々の前に示し続け
ている。

江戸時代の真宗高田派
の良空が「日域大乘相應
地」すなわち「日本は大乗
仏教にふさわしい土地で
ある」といったように、日
本では仏教が栄え、多く
の仏菩薩、明王や天部や
宗祖などの尊格が「ほと
けさま」として尊崇され
てきた。そうした「ほとけ
さま」は時代の要請や宗
派の教えに従い、お寺の
中心である本尊として祀

られた。たとえば、大和
法隆寺の釈迦三尊像や
宇治平等院の阿弥陀如
來、関東では武州八王子
の高尾山葉王院の葉師
如來や浅草寺の聖観音
菩薩などである。

こうしたなか、日本で
大きな人気を集めたに
もかわらず、地藏尊が
お寺の本尊として祀られ
ることは多くはなかつた。
上に見た矢田寺や、天台
宗の寂光院、臨済宗の建
長寺などは地藏尊を本
尊とする貴重な例である。

その他、多くの寺院では
脇侍や境内の石仏として
祀られるのが普通であつ
た。その理由は、地藏尊
を本尊とする宗派がない
からでもあるが、地藏尊
信仰が寺院から離れて
民衆のあいだに広く浸透
していたことにも起因す
る。だからこそ、地藏尊は
挨拶抜きでは入りがたい
寺院の本堂より、誰でも
お参りできる路傍や山
道に建立されてきたので
ある。その意味で、商店街
のなかにある矢田寺の位

置と造りには、地藏世界
の典型が示されている。
とげ抜き地藏で知られる
東京巢鴨の曹洞宗高岩
寺も同様である。

こうした地藏尊信仰の
広まりを調べていくと、
仏教とは別の道祖神信仰
などの日本の民間信仰に
たどりつく。つまり古い日
本の神様と仏教の地藏菩
薩が習合して、多様な性
格や功德を持った「ほと
けさま」になったのが「お
地藏様」なのである。

平安期の『今昔物語
集』や『地蔵靈驗記』など
の古典や、『笠地藏』のよ
うな民話には、仏教の教
えを基礎としながらも日
本固有の地藏信仰が語り
継がれている。それらは
インド以来の地藏菩薩と
も異なる面が少なくない。
日本語化した「おじぞう
さま」「おじぞうさん」と
いう呼称も、地藏尊への
親しみを示している。
次回以降、仏教の思想
と日本の民間信仰の両者
に意を払いつつ、地藏尊の
宗教を考えていきたい。

山の祈り自然の響き

山川草木皆是仏法 ③

法務課 佐藤秀仁

子供の頃に観た映画に
登場するような未来の便
利な機械の八割は、現代
に於いて既に開発され、
実際に利用されていると
聞きます。

世の中は目まぐるしく
発展の一路を辿り、食料
は溢れ、高層ビルの建設
や超高速鉄道の開通、世
界中の情報を瞬時に把握
する事が出来るインタ―
ネットなど、世の中は一
見便利で豊かと思えます
が、大自然に育まれて生
かされる喜びを忘れ、物
質的發展の追求による人
類最優先の行いによる資
源の大量消費や環境汚染
などにより、青く美しい
地球という星が悲鳴を上
げているように感じます。
その顕れに各地でおこ
る異常気象による災害に
は甚大な被害と悲劇が生
じております。

目に見える環境異変の

中では今、便利さや豊
かさだけでは安心を得る
事は困難である、思い
知らざれつつあるのでは
ないでしょうか。

便利さや豊かさなどを
判断する、人それぞれの
心こそがいよいよ肝要と
する時代であると思われ
ます。

人生の大先輩である先
人達は、大自然との共存
共栄する為の智慧を磨く
べく方法として、修験道
の修行を行ってきました。
大自然との融合の中で
心の耳を澄まし、眼を開

き、声なき対話により広
大無辺なる大自然の力の
尊厳を覚悟し、その営み
からなる先祖代々両親を
縁にして授かった自らの
生命に、しみじみ感謝の
祈りを凝らす事により大
きな安心を得て生きる力
としたのです。

修験道では、山も川も

高尾山の昆虫

オオクロカミキリ

85



よく、子供から灯火で得たという
虫をこれクワガタですか？質問を受
けますが、実際はクロカミキリであ
ることがほとんどで、教えてあげる
とガツガツというケースがしばしば。
確かに大アゴがクワガタのように
発達していて、クワガタのメスに見
えても不思議ではありませんが、触角が膝状に曲が
らず短く数珠状ですので見分けは簡単です。
標本にすると多量の油が出るため、応用できない
ものかと考えたりしてしまします。

さて、普通に見られるクロカミキリよりも一回り
以上大型のオオクロカミキリが生息し、こちらの方
は少ない種で、クロカミキリにはあまり似ていずカミ
キリムシと分かる外観をしています。

雌雄で色彩が異なりオスは暗褐色、メスは黒色で、
触角の長さが違います。

モミ等の針葉樹の立ち枯れで産卵に来たメスを見
かけることがあります。オスに至っては容易
に見つかりません。

高尾では私が数十年前に、ケーブル駅近くの道路
を歩行していたオスを見つけたのが高尾初記録とな
り、昆虫専門誌の短報に載りましたが、それ以後オス
は私自身も他の人が得たという話も聞かず、久しぶ
りに出会ってみたいカミキリです。

(文)松島 孝(撮影)加藤 真澄